

令和3年度文京区アカデミー推進協議会
第3回分野別分科会（学習活動、文化芸術分野）概要記録

日時 令和3年7月21日（水）書面開催

委員 田中雅文委員◎、増田純委員、三浦武裕委員、高澤芳郎委員、牧野恒良委員、増田みゆき委員、田口稔己委員、柳下幸一委員、山内豊委員、高橋由貴子委員、今井瑛里子委員（◎座長）

幹事 高橋征博アカデミー推進部長、細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長、齊藤嘉之教育推進部真砂中央図書館長

資料 資料1 学習活動分野の現状と課題及び施策体系
資料2 文化芸術分野の現状と課題及び施策体系
資料3 意見等記入様式（学習活動）
資料4 意見等記入様式（文化芸術）

議題

- (1) 学習活動分野の施策体系（案）について
- (2) 文化芸術分野の施策体系（案）について

以下、書面会議のため項目ごとにご意見を列記する。

- (1) 学習活動分野の施策体系（案）について
 - I. いつでも、どこでも、だれでも学べる環境づくり

ご意見
<p><基本方針></p> <p>○「多様なニーズ」という言葉はよく使われますが、文京区特有の文京区らしい文言はないかと思います。「区民の多分野にわたる学習意欲」等に置き換えることはいかがでしょうか。</p> <p>地域の学習拠点は図書館だけではないかと思います。「地域の学習拠点の主要な場所として」にすると施策と違ってしまいますのでまずいのかとは思いますが。</p> <p>○私が長く委員を勤めているゆえなのかもしれませんが「いつでも・どこでも・だれでも」という文言は、世の中が「多様性」を意識している中では当たり前なので、明記しなくても良いのではと。むしろ「いつでも・どこでも・だれでも」を書いていない方針や施策はそれを意識していないのか、と見られてしまう嫌いが無いでしょうか。</p> <p>○下から4行目「相談・支援体制の充実」等「支援」も入れた方が良いでしょうと思います。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響により、「集えない」との現下の状況を表すとの意味では、</p>

ご意見

『いつでも、どこでも、だれもが、どんな状況に於いても、学べる環境づくり』では、如何でしょうか？

- ここでは、「多様な学習機会の提供」「新しい技術を活かした学びの提供」がキーワードと考えますので、『オンラインによる学習機会の提供など、ICT を活用し、新しい技術による学びの提供への取り組みを推進します』と、強調しては如何でしょうか？

<施策>

- コロナ禍で交流がままならない時期に、一人でも知識を深めよう、勉強してみようという意識を促すような取り組みが欲しいです。「いつ勉強するの？今でしょ！」では古いですが、時間のある今こそ人々は人の粗さがしをするのではなく、自身の知識の向上に目を向けるべきだと思います。
- 簡潔で良いと思いますが、アの後に、オンラインの利用による学習や、デジタルデバイド対策（イの「支援の充実」に含まれるかもしれませんが）も入れた方が良いでしょうと思います。
- 学びの普及促進には、元々関心のある層への提供・支援の充実の側面と未だ未開拓の層への開拓、掘り起こしの側面があると思います。特に今後の継続・拡大や若い世代への継承・連続性を考えると、後者も重要です。仮に、施策ア項、イ項が前者を意識したものとすれば、ウ項を『新たに学びに触れられる学習環境の充実』と、しては如何でしょうか？

II. 学び続けるための活動の支援

ご意見

<基本方針>

- 交流型の学習機会の充実が最重要課題で、学び続けるには「自身の動機の強さ」と「仲間」だと思います。自身の思いの強さが無いときっかけすら掴めませんが、その思いを継続していくのは一人では難しい、ともに学ぶ仲間が必要だと思います。
- 現状と課題では、「学びを通じた交流」とそれによる相乗効果が重要だと思います。そこで、『学びを通じた交流の促進とその継続的活動への支援』としては、如何でしょうか？

<施策>

- 「交流と仲間づくり」はコロナ禍での緊急課題だと思います。ソーシャルディスタンスの中でいかに孤独にならないかが気持ちを持ち続けるのに不可欠な要素だと考えます。
- ウ 「学びを通じた」→「学びを通じた」或いは、「学びを通じての」の方が良いのではないかと思います。

Ⅲ. 学びの循環を通じた地域づくり

ご意見
<p><基本方針></p> <p>○この方針は区民プロデュースの講座に参加した区民が、次の機会にはプロデュース側に回って新たな区民参加を募る、ということで「学習機会」「資源の活用」の継続性を担保すると認識しているのですが、「循環」のイメージですと何かが回って再利用出来る感じですか。言いたいことは分かるのですが、方針から浮かんでくるイメージが具体的に見えてこない気がします。</p> <p>○Ⅲ. 学びの循環を通じた地域づくり→「・・・を通じた・・・」？</p> <p>○下から3行目「・・・充実します」→「充実させます。」</p> <p>○Ⅲ. 学びの循環を通じた地域づくりのタイトルですが、地域づくりが目的となる表現ではなく、相互の影響を訴えるという意味で、例えば「学びの循環と地域づくりの相互作用の活用」といった表現ではどうでしょうか？</p> <p>○5分野間連携の取り組みについても含めてはいかがでしょうか。</p>
<p><施策></p> <p>○この施策ですとどう「循環」するのかが不明瞭です。次の人にバトンを渡す「継承」のイメージが無いのですが、もしかしてそれはここでは不要だったりしますか？SDGsを想定しての項目だと個人的には思っているのですが。</p>

その他

ご意見
<p>○気になるので確認ですが、現状と課題④の黒ポチの二つ目ですが、主語が「学習司・インプリー・サポーター」だとすると現在この三者はそれぞれの方向からの学習支援活動分野をたいへんクリアにすみわけして、活動をスムーズに、且つ必要に応じて共同化して行っているかと思えます。ただし、文言の「重複している活動」の主語が他の組織を指すのであれば特に意見はありません。</p> <p>○このアカデミー推進計画を読む区民は多岐にわたります。誰にでも一目でわかるように、ICT・デジタルデバインドなど漢字で置き換えても簡単な言葉はその方がいいかと思えます。○仕事の成功においてもそう思っていますが、学習することで自己の知識の向上に成功する秘訣は「誰とやるか」だと思えます。講師と参加生徒によって決まる、向上心のある講師と生徒が集まる講座やイベントが望まれます。新たに何か始めようとする際に、その講座自体や信用度合いで参加者の不安を取り除いて上げられるように、区の事業は存在していると思えます。区としてもこの人ならばと信頼のおける講師を用意し、講師もこれならばと思える内容を用意しなければならないと切に願う所です。</p>

ご意見

- 「生涯学習」という言葉が、(以前と比べて) 出て来ないような気がします。
- 先日の分科会でも申し上げましたが、学生の学習と、生涯学習には境があるようではないものと考えます。経済格差による学力格差に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、小中学生の学力格差は深刻な問題となっています。小中学生では放課後の学習サポート等取り組んでおりますが、特に図書館の利用など、教育委員会と協力することで区民のつながりだけでなく、学生や若い人材の活躍を促すことができると考えます。また、子どもたちの取り組む習い事などは親の影響を大きく受ける傾向になるため、親の世代を積極的に巻き込むことで、子どもたちの生涯学習に興味を持っていくと考えます。SNSでの口コミも今や、子ども達の発信するものも多くある時代。ぜひご検討頂けたら幸いです。

(2) 文化芸術分野の施策体系(案)について

I. いつでも、どこでも、だれでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり

ご意見

<基本方針>

- コロナ禍にかかわらず、オンラインの活用は自宅から出ることが困難な区民(身体状況や介護などで)が広く文化芸術を鑑賞できる機会を持つための手段だと思えます。特に重きに考えたい項目だと思えます。
- 学習と同様「いつでも、どこでも、だれでも」の文言は取ってしまっても良いように思います。書いていないことはやってよみたいに都合よく取られないように、何でも明文化する傾向ですが、どんどん人間が退化していく(行間が読めないなど)気がします。
- 下から3行目、「充実します」→「充実させます」
- シビックホールの改修という絶好のタイミングを利用して、これまでの諸問題を解決する施策を改修の中に盛り込んでいくことを表明してはどうでしょうか?
- 『いつでも、どこでも、だれもが、どんな状況に於いても、文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる(鑑賞・観覧等)】』としては如何でしょうか?(理由は、学習分野に記載の通り)
- ICT構想が進む中、新型コロナによる影響が、今後その推進に益々拍車をかけるものと思えます。そこで、今後の転換・発展を見据えて、「オンラインの活用など、区民が場所や時間を問わず、…」を、『オンラインやICTといった新しい手法・技術を活用し、区民が場所や時間を問わず、…』と、強調しては如何でしょうか?

<施策>

- 問題ないと思えます、具体的な事業にどのように反映させるかを考えねばなりません。
- 「多様な手法」に含まれるかもしれませんが、「オンライン」の活用等も入っても良い

ご意見

かと思えます。

- 元来、文化芸術への（特に、鑑賞は）志向は、本物にあると思えます。よって、例えばオンラインや ICT 等の技術応用に於いても、如何に本物に近いかというその再現性の完成度の高さが求められていると思えます。そういった志向性を意識し、ア項を『だれもが質の高い文化芸術を身近に…』としては、如何でしょうか？

Ⅱ. だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出

ご意見

<基本方針>

- 鑑賞型と体験型を分ける方針で前回このように「みる」「する」を区別したように記憶していますが、鑑賞も楽しむことに含まれるように思うのと、「環境づくり」「機会の創出」の違いもよくわからないので、まとめても良いのではと思えてきました。
- 下から 3, 4 行目 文化活動→文化芸術活動
- 『だれもが、どんな状況に於いても、文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する（活動・参加等）】』としては如何でしょうか？（理由は、学習分野に記載の通り）
- 「区民が自身の興味・関心やレベルに応じて、多彩な文化活動」とは、細かいことですが、『多彩な文化芸術活動』としては、如何でしょうか？

<施策>

- いずれも重要なことと存じます。具体的な事業にどのように反映させるかは各部門共通の課題です。

Ⅲ. 文化芸術を支える人材の育成支援の充実

ご意見

<基本方針>

- 子どもたちに最初から「本物」の文化芸術にふれる機会を十分に提供することは必要だと思います。
- それと同時に子どもたちが本物の「伝統文化」を学べる機会を今まで同様にそしてさらに、増やしていくことが大切だと思います。
- 担い手の育成を目的として、現状で絶滅危惧種の伝統文化のうちどれを支援していくのかを区として決定し、それらを紹介するようなイベントで区民に周知、興味を持つ次世代への実務的な育成研修に区としてどれくらい予算を割けるか、区の規模ですべてを網羅するのは難しいが、まずは区民への周知というのが区としての責務だと考えます。

ご意見
○「地域の貴重な文化資源を守り、…」の文章は、IV項の「地域の資源を活かしたまちづくりの推進」に入れた方が、宜しいかと思いますが、如何でしょうか？
<p><施策></p> <p>○伝統文化は他の芸能や部門と違って、多数の支援者やファンを確保する必要はなく、ピンポイントで興味を持つ1名をモノにしていく仕組みが重要になります。全区民を対象になるべく多くの方に還元を考えると区の方針とは真逆になりますが、そうした支援は可能でしょうか…</p> <p>○文化資源の内容を、IV項にまとめるなら、施策のウ項の内容もIV項になります。</p>

IV. 地域の資源を活かしたまちづくりの推進

ご意見
<p><基本方針></p> <p>○観光との連携は協議会メンバーから発言がありましたが、重要な課題だと認識しています。今コロナ禍で外国人、国内他県の方の誘致はままなりません、だからこそ整備に力を入れる絶好の時期だと思います。</p> <p>○「現状と課題」にある「新しい文化芸術を生み出す」という観点が記述されていないと思いますが。</p> <p>○文京区の文化資源のみでは、すべてのニーズにこたえるのは難しいと思います。他地域との連携も強化してはどうでしょうか？</p> <p>○文化資源の再発見というキーワードも入れておいた方が宜しいかと思いますが、如何でしょうか？</p> <p>○今後のデジタル技術の発展により、文化資源の見方・見せ方に変化が生じるものと思います。例えば、ドローンを使った映像により、見えない方向からの（建築物等の）映像や高精細化による美術品や制作物の鑑賞等への変化です。そのような変化の視点も留意できたらと思います。</p>
<p><施策></p> <p>○オンラインでの情報発信は横断的施策に入りますでしょうか。観光と結びつけるにはオンラインでの発信が不可欠です。</p> <p>○情報の発信に、オンラインやデジタルも活用する等が入ると良いと思います。</p>

その他

ご意見
○伝統文化のターゲットは非常に狭い的を射るようなもので、区としてはまずその狭い

ご意見

的を探し当てるために、各方面に偵察（イベント）をするようなイメージです。的を射る作業はそれぞれの各分野の専門家に一任することになりますが、そうした範囲の限られた、一部の人しか利益供与の無い事業に区の予算を繰り入れることが可能かどうか、人材育成の鍵だと思っています。具体的な育成方法や事業が見当たらない状況下において、単に区のイメージを良くする目的で目標に入れるのだとしたら、個人的には不満があります。これを方針に載せる以上は最後までやり切る区の覚悟を併せて期待するものでございます。

○文化芸術活動を「する」ということでは、現在、コーラスや3人以上のダンスの練習をする場所がない等の制約があります。

また、5年先までの方針なので、それまでに、状況がかなり変化していると思いますので、その変化等に対応できる施策が必要かもしれません。

○学校での日本文化の学習には、音楽、体育等があります。子ども達に引き継いでもらいたいものが多いのですが、この2年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、日本古来のお祭りなども中止となり、地域の皆様も子どもたちも日本の文化に触れることができずにいます。ぜひ、こちらもアカデミー推進課だけでなく、教育委員会と連携しながら進めて頂ければ更に広がるのではと考えます。

○文化芸術への関わりを通した区民同士の交流を深め、その相乗効果により、普及促進を図ることも有効と思います。交流を深める手立てやその継続への支援という視点も忘れずに留意すべきと思います。

以上